

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイト等に記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	堀込美紗輝	学年(渡航時)	3年
派遣先大学	キール大学		
国・地域	イギリス		
派遣期間	2025 年 9 月 ~ 2026 年 1 月		

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
British Cultural Studies	留学生限定開講科目。イギリスの国家としての成り立ちや歴史、政治や社会、文化などについて学ぶ。1コマ2時間のセミナー形式。
British Government and Politics	イギリス政府とイギリスの政治制度や仕組み、憲法のほか EU 離脱等の現代政治の諸課題について学ぶ。
Contemporary Social Theory	社会学の理論をイギリス現代社会に照らし合わせながら学ぶ。

留学レポート(1,500 字以上)

【学校・授業】

キャンパスはイングランド最大級の敷地面積で、敷地内に牧場や風力発電施設、森、ジムなどのスポーツ施設、バーなど様々な施設がある。授業を行う教室は学部ごとに異なるが、建物の構造が複雑で教室に行く道に迷うことも最初の月はあった。

基本的に1つの授業につき週2時間(2コマ)の講義やセミナー、チュートリアルがあり、予習として Key Reading List の文献を読むことが前提とされて授業が進む。出席は Keele アプリで教室入室時に各自で登録するが、その際端末の位置情報が記録される。出席は成績には反映されない授業が多い。留学生は割と予習文献に目を通している学生が多かったが、授業によっては正規学生の中には全く読まない学生もいた。

講義では授業を聞いて大枠を理解し、理解できなかったところをセミナーやチュートリアルで先生に直接質問したり、ランダムな近くの学生とディスカッションやグループワークに取り組んだりしたことで、理解を深め、定着させることができた。セミナーやチュートリアルで現地の学生にイギリス社会の実際や実体験の話を聞く機会も多く、より学びを深めることができた。

履修登録に関しては、留学生一人毎に一人の教員が付くメンター制度があり、メンターが何の授業を履修するか相談に乗ってくれる。履修しようと考えていた授業を伝え、その授業の難易度と本人の言語力、担当教員の人柄や指導の手厚さを考慮してアドバイスをしてもらえた。留学生活全般や、国内外への旅行に関するおすすめや耳寄り情報も教えてもらい、短期間でも色々な経験をすることができた。

【気候・生活】

秋から冬にかけては空が厚い雲に覆われる日が多く、日照時間も午前8時頃に外が明るくなり午後4時を過ぎると暗くなっている日々を過ごした。気温は冬でも氷点下に行く日はほとんどなく、霜も滅多に降りない。湿度が高く、私の寮の部屋は常に60~70%ほどだった。(建物や部屋によって全然違います)そのため、衣類がかびないように空気の入替えを頻繁に行っていた。9月はまだ晴天の日が続くことがあったが、10月頃から太陽を見ない日が増え

買い物はキャンパス内の Co-op でも可能だが、町のスーパーよりはやや高め。利用時は Co-op アプリを入れ、年会費1ポンドの会員になるとかなりお得に食事や食料品、最低限の日用品を手に入れることができる。(課題

に追われている週はとても助けられた)

普段の買い物はキャンパス内のバス停から 15~20 分ほどバスに乗ってスーパーに行っていた。買い物する店舗に関しては、最初のオリエンテーションで Global Opportunities という留学に関する部署のスタッフが詳細に説明してくれた。食料品は日本よりも安く手に入った印象で、チーズやギリシャヨーグルトを買うのが毎回の楽しみだった。

公共交通機関に関しては、町(最寄りの Newcastle-under-Lyme や少し離れた大きめの町である Stoke-on-Trent)へは路線バス、マンチェスターやノッティンガム、リバプール、ロンドンなどに行く際は電車を使った。バスは 1 回あたりの運賃が高く、1 往復で 1000 円前後かかることがあった。(最初はクレジットカードのタッチ方法や区間がよくわからなかった) 確実でお得な方法は以下の通り。↓

- ・大学から乗れる路線バス(25 か 85 のバス): First Bus アプリで Smart Tickets の Daily, Weekly, Monthly, Annual のどれかを買う。(乗り放題。大学からスーパー、駅など主要スポットはほぼ使用可能エリアに含まれる) 私は 1 セメスターの 2 か月目から Monthly を買って暇なときに町を散歩していた。
- ・電車: Trainline か TrainPal のアプリからチケットを購入する。年齢割引でとても安く買えるため、Railcard は最初に買うことがおすすめ。

【寮生活】

寮は Barnes C に割り振られた。Barnes なら徒歩 1~5分(A~Z の建物による)で Barnes Hall というバス停にアクセスできる。

C は女子学生 14 人で 2 つのトイレ、3 か所のシャワーとキッチンが共用で、部屋に洗面台がある。キッチンでフラットメイトと交流することが最も多かった。イギリスはパーティー文化が強く、深夜までお酒と DJ を毎晩楽しむ人もいれば、早朝からジムに通って健康的な生活をする人もおり、騒音問題やキッチンの片づけ、棚の占有に関する問題は何度か話し合われた問題だった。自分の要求をはっきりと言葉にしてフラットメイトに伝えない限り、改善されることはないため、寮で気になることがあったときは躊躇わずに伝えることが重要。

暖房は管理棟にて一括管理されているため、自分でスイッチを入れたり切ったりすることはできない。

【観光】

1~2 か月に一度、留学生向けの 1 日バスツアーがあり、日用品ツアー、東アジア学生に向けたアジアスーパーツアー、リバプール、ヨークへのツアーなどで出かけた。申し込みは先着順で、人数に限りがあるため、メールが来たらずぐに申し込みをした。

最寄りの Stoke-on-Trent 駅からはマンチェスター、ノッティンガム、ロンドンなど様々な都市に行くことができ、マンチェスター空港へのアクセスも良いため、国内外への旅行がともしやすい。

Stoke-on-Trent は陶器の生産が昔から盛んで世界的なブランドのミュージアムやアウトレットストアが複数ある。周辺都市への観光も楽しいが、授業終わりなどの時間が空いた時にバスの乗り放題チケットで町を探検してみると面白かった。授業や寮、学内のイベントで仲良くなった友達と町を歩いたり食事に出かけたりすることで、より交友関係を深まり、充実した日々を過ごすことできた。

留学中の写真(5枚程度) ※写真のキャプションも入れること



Wedgweed のアフタヌーンティー



キャンパス内を散歩していた
チャウチャウ



9月のロンドン



9月のキャンパス内放牧地



10月キャンパス内の Keele Hall